

第1回 (2013.3.12)

サロンニュース

サ・ス・カー!!

まさか、○×父が！

え---！○×母までも？？

ビックリのスクープが飛び出す驚きのサロン
そんな、第1回となりました。

子どもたちの成長を語り合う中で、

- ・ ・ 成長の証しとして、できるようになってきたこと
- ・ ・ 反抗期を感じるようになったこと
- ・ ・ まだまだ成長途中であること
- ・ ・ ふむふむと感じた会。

ふと、誰が話の矛先を振ったのか・・・。

「では、自身の子どもの時代はどうだった？」

その告白には同席した全員がびっくり仰天したのでした。



続きは裏面で。

「子育てサロンって何？」

サロンの入口はそこからでした。シャリバンが作成したレジュメには、最近の子どもの様子・子どもたちへの接し方、最新の研修から、日本の学童ほいく誌読み合わせ、これからの子育てサロンについて、など、深いテーマが盛り込まれていました。シャリバンのサロンへの想いが伝わります。



偶然、出席者のほとんどがのぎく保育園卒園生（在園・家庭であつたことから、のぎく保育園での「保育の会」を引き合いに、のぎくの保育の会は、年に3か月に1度くらいのペースで保育士がクラス別に日々の取り組みや子ども様子を報告書にまとめて説明をします。では、サロンは？

シャリバンやミッキー！かなうち・あやちゃん等から日々の話しを聞くもよし。

まずはスタートです。

ゆるりと始まった第1回目は、終始、親が握った発言権。岩井母から望年会第二弾とも言ふべき、一樹の大いなる成長物語。シャリバンはうん・うんとその話ひとつひとつにおおきくうすいていました。

そして、高学年男子の反抗期。まだ僕の前ではおとなしい。と余裕シャクシャクのO×父。誰も能通过道。とたくさんの子どもたちを見つめてきたシャリバン。十人十色の成長がある。一山一山乗り越えるタイプ。なだらかに山を登るタイプ。そんな発言のシャリバン自身は？なだらかに思春期を過ぎた：だそうです。

ジャア、ミナサンは？出席した父母の証言にとっても盛り上がりしました。穏やかな今からは想像できないね…でもさ。そうやって心のもやもやを発散させ立派な大人になったの

ですよ。本当に、誰もが通る道なのです。

「木曜日は子どもたちが自分達で行動する日」

どうしてそれは急に決まったの？そんな質問に、シャリバンから、「子どもたちの次の行動へ移るときは転換が上手くできない。言うてやらせるのではなく、自分達で考えて行動すること出来るようになるのでは？」。そんな思いで始めたことが話されました。最近の高校生ですら、生徒会など自治活動が十分でなく自分で考えて行動できない子がいるという現実から、木曜日の取り組みは賛成です。と期待感たっぷりの意見もありました。



「でも脱走！」

事件について言及するのであります。この様な緊急

時の事実報告はいつ行うのが妥当か？子どもたちの安全を守るために指導員と親ができることは一体何でしょう？そんなことでの意見交換をしました。

答えは時と場合と子どもの学年や環境など、100によつて幾通りにもなり、すぐに出せるものではありません。先日の事件報告が適切であつたかどうか。特に、一人で帰る子どもについては、帰宅時間が遅くなるのが明らかな場合は、連絡をしてほしい。というお願いもありました。

いずれにしても、今後の対応についてはシャリバンに検討をお願いすることに。まずは立ち上げたMLで試験運用かな？ ヨロシクネ。

「シャリバンの「炸裂中」

それは、*母からの発言。おはようの挨拶はシャリバン風に「おはよー」と元氣よく大きな声で。電話の応対は「ハイ、ハイ」と歯切れよく姿勢も正し

て。母曰く、それはシャリバンの影響をすくく受けている証拠。シャリバンのことを「理解して助けてくれる人」と位置付けているからですよ。と。

これからの「子育てサロン」

まだ話し足りない。そうして第1回サロンは終わったのでした。従来、議事録や報告はシャリバンが担うことが当たり前になっていたが、サロンは親で。今回シャリバンが提案したテーマはいつか取り上げましょう。次回のテーマは？そしていつ？ 具体的には未定ですが、次回をたのしみに。

〈後記〉



議事録係りでありながらお話しに夢中となり手がおろそかに。記憶をたどりたいどりの報告です。重要なことを書き落としていくかも？